

The 29th Annual Meeting of External Fixation and Limb Lengthening

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-12-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/45351

『学会開催報告』

第29回日本創外固定・骨延長学会

The 29th Annual Meeting of External Fixation and Limb Lengthening

金沢大学大学院機能再建学教授(整形外科学)

土屋 弘 行

平成28年3月18日(金), 19日(土), 石川県文教会館において, 第29回日本創外固定・骨延長学会を開催させていただきました。

金沢大学整形外科では, 日本創外固定研究会から日本創外固定・骨延長学会となつての初めての開催となつた第10回(1997年)に本学会を開催させていただいており, 以来19年ぶりの金沢での開催となります。近年, 本学会はやや下火になりつつあります。そこで本学会では, 今後の創外固定を用いた治療の行く末を考える一方, 創外固定器に触れる機会が減つた若手医師に対する教育も目指しました。現在, 創外固定を応用されている先生には新しい創外固定(輪)の有用性を拡げていただき, そして新しく創外固定(輪)を使用される先生の裾野(輪)を拡げていきたい思いのもと, テーマを「上げよう創外固定の輪」と掲げさせていただきました。

学会中は, あいにくの雨にもかかわらず, 全国より整形外科医, 理学療法士, 看護師など含め約300名という多数の参加者がありました。演題数も金沢人気にもあやかり, ここ最近では最多の110題の演題発表となりました。学会では2人の海外からの招待講演, 2つの教育研修講演, 4つのランチオンセミナー, 2つのシンポジウム, 3つのパネルディスカッション, 一般演題を企画させていただきました。特に教育研修講演では本学のご出身である2名の先生にご講演いただきました。ひとり骨盤骨折で世界的に高名な富山市民病院の澤口毅先生に「骨盤輪骨折: 初期固定と再建, 創外固定の適応と限界」ということで, 骨盤骨折治療における創外固定の位置づけ, また内固定を含めた治療についてご講演いただきました。2人目は金沢子ども医療福祉センターの櫻吉啓介先生に「小児の下肢変形と歩容異常」ということで, 小児でのさまざまな歩容異常とその原因について多くの歩行動画をもちいてご講演いただきました。招待講演では, Sinai Hospital of Baltimore のJohn Herzenberg 先生に「Limb lengthening without external fixator」ということで, 昨今の創外固定を用いない, あるいは創外固定でアシストして行う骨延長や変形矯正の最新治療についてご講演いただきました。またHospital for Special Surgery(HSS)のRobert Rozbruch先生に「Advances in limb lengthening and reconstruction surgery」ということで, 全米でも最

多の症例数を誇る施設の一つであるHSSの豊富な症例・経験を紹介いただきました。シンポジウムでは「創外固定の未来」と「新しい偽関節・感染性偽関節治療」について, パネルディスカッションでは「創外固定器を併用した軟部組織再建法」, 「骨軟部腫瘍に対する創外固定器を用いた治療」, そして「小児に対する創外固定治療の適応と限界」について討論が行うことができました。また多くの一般演題でも非常に活発な討論を行うことができました。

近年, 内固定材の進歩, そして医師や患者の創外固定器に対する理解不足や嫌悪感などから創外固定・骨延長がやや下火になりつつあるように感じています。しかしながら創外固定器でしか治療を行えない疾患・症例があるのも事実であります。本学会では, 現在の創外固定の問題点, これからの創外固定治療の未来像などについて考え, 今後のさらなる発展を期す発表の場になったと思います。

最後に, 本学会に参加いただきました皆様, また本学会を開催するにあたりご協力いただきました石川県, 金沢市, 企業, 金沢大学十全医学会, 金沢大学整形外科同門会, 医局スタッフの皆様には深く感謝いたします。

